

# 持続可能な未来への道

## メーカー各社 SDGs の取り組み

Vol.01

### アイホン株式会社

今や、企業の共通言語となりつつあるSDGs。とりわけ、電設資材メーカーとの親和性は高く、2030年までに達成することを目指すSDGs17目標のうち「07:エネルギーをみんなにそしてクリーンに」「08:働きがいも経済成長も」「09:産業と技術革新の基盤をつくる」「11:住み続けられるまちづくりを」「12:つくる責任 つかう責任」「13:気候変動に具体的な対策を」などは、電設資材メーカーの企業活動そのものとも言えます。

そこで、今号より、全日電材連賛助会員の電設資材メーカー各社を順番に訪問し、その先進的な取り組みをご紹介します。



#### アイホン株式会社概要

本 社 所 在 地：愛知県名古屋市中区新栄町一丁目 1 番  
明治安田生命名古屋ビル 10 階

創 立：1948 年

代表取締役社長：鈴木富雄

従 業 員 数：1,045 名（個別、2023 年 3 月末現在）

主 要 製 品：戸建住宅向けシステム、集合住宅向けシステム、医療・福祉施設向けシステム、オフィス・工場向けシステム

H P : <https://www.aiphone.co.jp/>

#### 沿革

- 1948年 (資)東海音響電気研究所設立。
- 1952年 社名を愛興高声電話器合資会社に変更、インターホンの専門メーカーとしての体制をととのえる。
- 1954年 製品商標を<アイホン>と改称。
- 1959年 社名をアイホン株式会社に。
- 1969年 熱田区に熱田工場を新築。
- 1970年 AIPHONE CORPORATIONをアメリカ・ワシントン州シアトル市に設立。
- 1973年 熱田区に本社を新築。
- 1981年 デミング賞を受賞。
- 1985年 ドアホン電話発売開始。電話機業界に参入。
- 1986年 豊田工場を新築。
- 1989年 2線式テレビドアホン「えがおとく」発売開始。
- 1992年 病院用ハンディナーシステム発売開始。
- 1997年 カラーテレビドアホン「あいカラー」発売開始。
- 2000年 東京証券取引所および名古屋証券取引所第一部に上場。
- 2008年 「愛知ブランド企業」に認定される。
- 2015年 名古屋市中区新栄町に本社を移転。



#### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



# 本業の発展が即ち SDGs達成につながる



第一回の訪問企業は、愛知県名古屋  
市に本社を置く、インターホ  
ン、ドアホンメーカーのアイホン株  
式会社様です。

本社ショールームにおいて、伊  
藤真人経営企画部主幹、首藤聡志  
営業推進部集合リニユーアル市場  
担当課長の2名にお話を伺いま  
した。

(文中での敬称は略させていただきます。)



伊藤真人主幹

首藤聡志担当課長



**編集部** まずは、SDGsに取り組むようになった背景を教えてくださいいただけますか。

**伊藤** 当社で取り組みの検討を始めたのが2018年です。SDGsスタート年(2016年)よりは少し遅れた形ですが、これまでも企業の社会的責任として環境面をはじめ様々な取り組みを行っていました。

2018年に、※コーポレートガバナンスコードの改定や国によるSDGs推進後押しなど社会情勢の変化が重なり、社内協議の結果、これか

らは「SDGs」が求められる時代になると判断しました。そこで、社内向けに、これから取り組み始めるというSDGs宣言をし、正式に取り組み始めた次第です。

※コーポレートガバナンスコード…上場企業が行う企業統治(コーポレートガバナンス)においてガイドラインとして参照すべき原則指針を示したもの。

**編集部** 企業のブランディングというのでしょうか。

**伊藤** もちろんそれもあります。が、本業に落とし込み、企業として利益が増えることが社会発展につながり、経済発展につながるということが、企業がSDGsに取り組む本質だと当社では考えています。

**編集部** 実際、取り組みはどのように進めていきましたか。

**伊藤** まずは、「SDGsとは何かを知ろう」という勉強から始めました。ただ、勉強だけですとなかなか理解しづらいです。拒否感をもたれる方の中にはいかったので、スタート

ラインとしては、勉強と並行して実務レベルで何がSDGsに当てはまるかの紐づけを行っていききました。

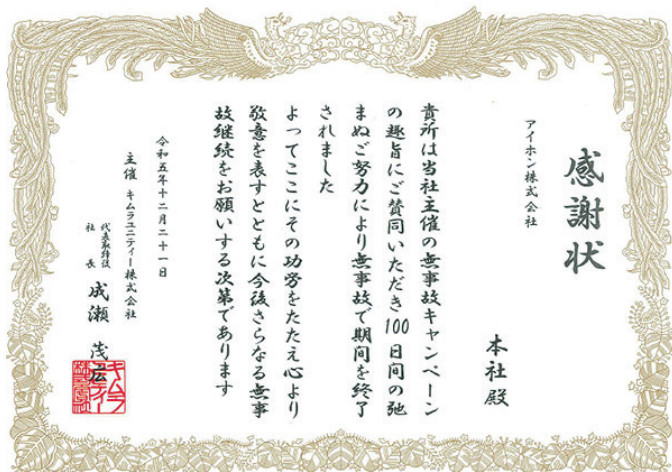
次の段階として、商品開発における環境配慮設計を更に



日本全国 Clean up キャンペーン

進化させ、部材点数を減らしたり、商品体積を小さくしたりといった環境負荷低減の推進など実務レベルの取組みに移行し、今に至ります。

**編集部** ホームページを拝見す



100 日間無事故キャンペーン感謝状

ると、かなり幅広い取り組みをされていますね。

**伊藤** ワークライフバランス活動や「100日間無事故キャンペーン」への参加、日本縦断 Clean up キャンペーン、名古屋市子育て支援企業認定、インターンシップ、工場見学の実施、健康経営宣言など、



インターンシップ（オンライン）

ほとんどが従来から行っていることです。難しく考えてしまふと、なかなか長続きしませんので、日常業務がSDGsにつながっているという考え方で社内にはアナウンスしています。

**編集部** SDGsに取り組むようになってから、社内の雰囲気



工場見学

は変わりましたか。

**伊藤** 現場から直接「このような取り組みはSDGsだと思えますが、社内では始めませんか」というような提案や前向きな意見をちらほらと聞くようになりました。SDGs推進を取りまとめる立場として非常に嬉しいことです。

**編集部** リクルート面でも効果があるのではないのでしょうか。

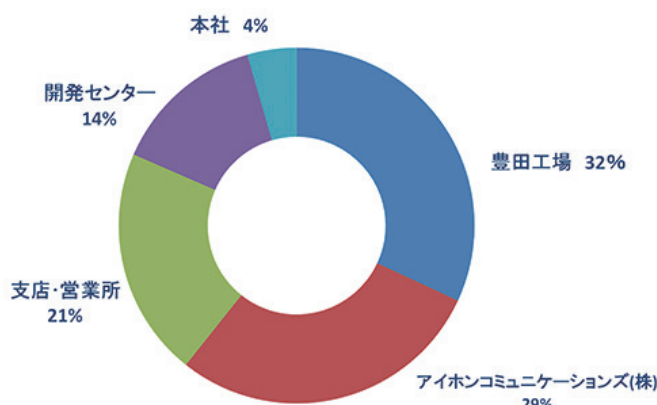
**伊藤** 人事部に話を聞くと、企業がどのような社会貢献をしているかということを判断基準にしている学生が増えているそうです。SDGsに取り組んでいないと優秀な学生は獲得できない時代になってきたという危機感があります。

**編集部** SDGsに基づいた取組みやプロジェクト事例（商品以外）について教えていただけますか。

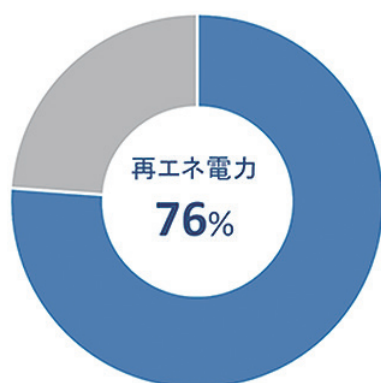
**伊藤** 当社の業務の全てがSDGsに絡むとは思っておらず、今年度は当社の本業と関連の深いSDGs目標8、11、12を重点戦略管理に設定し、取り組んできました。各本部・部門自らが決めたSDGs活動を目録設定とともに立案し、執行役員に目標8、11、12の担当を割り振り、活動の進捗を四半期ごとに確認・指導するという内容です。



国内主要事業所の電力使用量割合(2022年度)



国内主要事業所の再エネ電力導入割合



従業員の意識改革とともに、執行役員が担当本部以外の活動から新たな気付きを得られるなどの効果がありました。

また、社長を委員長とするサステナビリティ経営推進委員会を今年度より発足し、SDGsを含むESG課題(リスク)と機会について一年

間協議してきました。今年度は主に環境配慮設計基準の見直しやCO<sub>2</sub>排出量削減に向けた施策の検討等、環境関連を重点的に取り組んできました。

### ■将来の展望と課題

編集部 2030年SDGs達成

目標をお聞かせください。

伊藤 CO<sub>2</sub>削減に向けてできることを各部門に考えてもらい、総合した結果、当社のCO<sub>2</sub>排出量(Scope1、2)・・・2020年度比50%削減(2020年度5049.6t→2030年度2524.8t)を目標として掲げています。

編集部 具体的にはどのような取り組みですか。

伊藤 照明器具のLED化や電気関係スイッチのオン・オフを小まめにするといった日常の些細なことから、愛知県内事業所・工場で使っている電気の再生可能エネルギーへの切り替え、全社用車のハイブリッド車への切り替えといった大がかりなことまで、検討・計画しています。

編集部 SDGs達成に向けての課題といますと。

伊藤 会社の利益を優先するあまり、取り組みが下火になって

しまうと意味がありません。全従業員の意識を継続的に高い水準で維持することが重要です。事務局としては、課題というより、意識が盛り下がらないよう、継続的な情報発信・情報共有に取り組んでいく必要があると考えています。

編集部 将来的なSDGsの取り組みの展望をお聞かせいただけますか。

伊藤 最終的には、当社が提供する商品やサービスなど本業の全ての活動が何かしらSDGsに紐づき、社員は当り前のこととして意識している状況がベストです。それにはもちろんコストがかかりますが、その先にチャンスがあるというスタンスで執行役員の方々には経営判断をしてもらっています。本業の発展が即ちSDGs達成となるべく常に意識していきたいと思っています。



SDGs

いちおし  
商品

## Pabbit (パビット)

## 首藤

当社のSDGsいちおし商品は、運送業の2024年問題にも貢献出来、集合住宅における宅配の受け取り方の悩み(宅配の受け取りの課題)を解決出来ると考え、開発したサービスの『Pabbit (パビット)』です。

再配達の削減による配送事業者の働きがい向上とコスト削減、それにもなう環境負荷低減、ひいてはマンション入居者にとつての「住みやすさ」の向上を実現できます。

SDGs目標としては、3、8、9、11、12、13に関連しています。

## 特長

当社のインターホンシステムがもつオートロック機能と、資本・業務提携先であるPACPORT社とのクラウドサービスを連携させることにより、宅配便の荷物の伝票番号をそのまま活用して、入居者が許可した

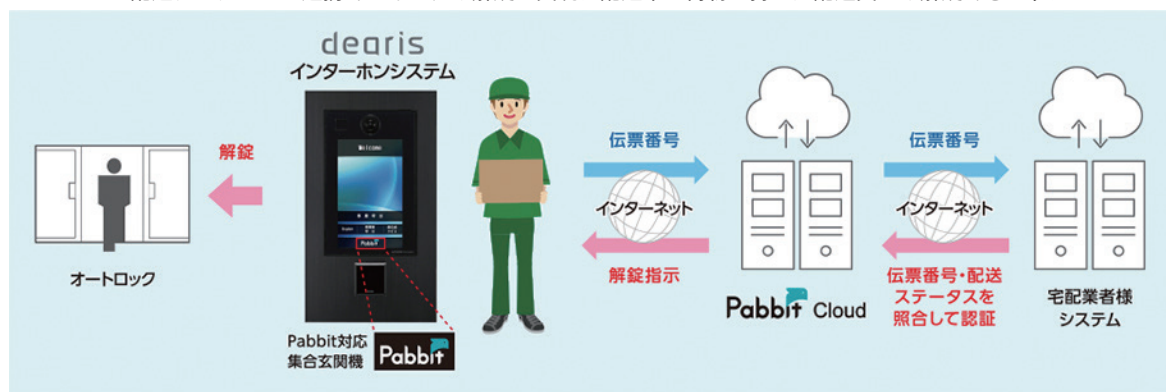
宅配物に対してのみ、集合住宅のオートロックを解錠し、自動ドアを開くことで、置き配を含む安全な宅配を可能とするサービスです。

## ■SDGs商材を拡販するために電材卸会社へお願い

2024年9月に上記記載の『Pabbit』を標準搭載した、PATOMo(小規模マンション・アパート向け集合住宅用インターホン)の集合玄関機を発売予定です。これにより、弊社の集合住宅用主力モデルには、『Pabbit』は標準搭載されます。そのため、あえて意識していただく必要もなく、当社の『dearis』、もしくは『PATOMo』をご採用いただくことでSDGsに貢献いただけます。積極的に当社機器の拡販をおねがいしたいと思います。

## 【サービス概要】

配送システムとの連携でセキュアな解錠を実現。配送中の荷物を持った配達員のみ解錠できます。



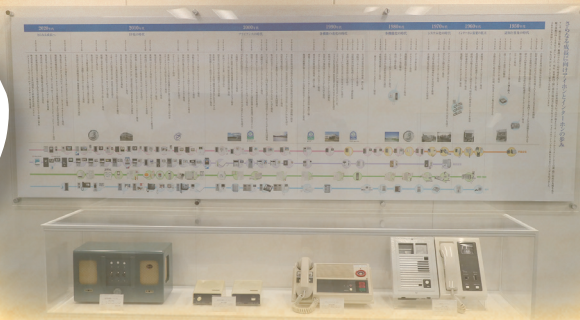
利用時はインターホン親機に録画が残るのでセキュリティ面も！



※インターホン親機への録画はdearisシリーズの場合のみ。



# 会社のお宝 ご紹介！



## 「拡声同時通話インターホン」

昭和 26 年製造

当時としては機器を通して相手の人と話  
すること自体、画期的なことで、旅館・製  
材所などの業務用として多くのお客様に使  
用されました。



## 「拡声交互通話インターホン」

昭和 35 年製造

トランジスターが開発され、その採用により従来  
の真空管方式に比べ小型・軽量化が図られました。  
ケースも樹脂が使用され、現在のインターホン普  
及の源となりました。

## 「セキュリティインターホン」

昭和 48 年製造

今日では普及していますが、通話を中心と  
するインターホンに防災の分野である火  
災・ガス漏れ警報などの機能が初めて取り  
入れられた商品です。



## 「白黒テレビドアホン」

昭和 57 年製造

訪問者を目で見て確認でき、防犯に効果があるテ  
レビドアホンの初期の商品です。家の外と内を音  
と映像でつなぐ、新しいかたちのコミュニケーショ  
ンです。カメラはビジコン、モニターは 1.5 型ブ  
ラウン管が使われました。